昭和大学新聞

学校法人 昭和大学
発行人 小口勝司
電話（3784）8000 〒142-8555
東京都品川区旗の台1の5の8
1部50円 毎月1回発行

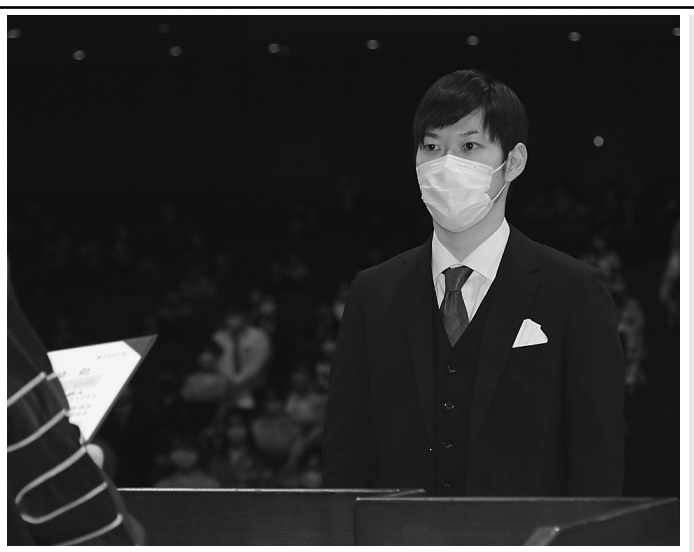
4月号の内容

1面
・昭和大学卒業式
・昭和大学大学院修了式
・医学部附属看護専門学校卒業式
2面
・昭和大学助産学専攻科修了式
・認定看護師教育センター修了式
・昭和大学女子アイスホッケーブルーウィンズが優勝
・小野賢二郎教授らの研究グループが解明　アルツハイマー病の発症メカニズムの一端
・就任のお知らせ
・昭和大学サポート寄付金寄付者氏名
3面
・卒業生・修了生一覧
・令和３年度第Ⅱ期大学・看護専門学校入学試験結果
・令和３年度大学院春季入学試験結果
4面
・昭和大学の思い出
・昭和大学各附属病院へのご支援の御礼

〔問合せ先〕
【本紙について：総務課大学広報係】
03-3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp
【各種募金・寄付について：企画課】
03-3784-8387
【学事について：学務課、大学院課、入学支援課】
03-3784-8022（旗の台）
0555-22-4403（富士吉田）
045-985-6503（横浜）
03-3784-8026（入学支援課）

# 令和2年度 卒業式

## 医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部

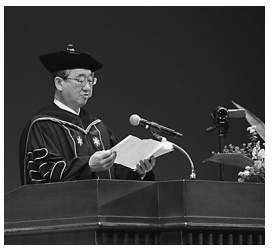


上條賞を受賞した須戸雄大さん（薬学部）

令和2年度昭和大学卒業式を3月16日、パシフィコ横浜国立大ホールで挙行し、医学部124名、歯学部92名、薬学部168名、保健医療学部151名（看護学科102名、理学療法学科29名、作業療法学科20名）の合わせて535名が医療人としての門出を迎えた。今年は新型コロナウイルス感染予防で入口での検温や式典が一部短縮で行われたほか、家族の入場を1名までに制限するなどの対策を講じて実施した。

式典は久光正学長から各学部の総代に学位記が授与され、告辞（別掲）が行われた。

在校生代表は送辞で「新型コロナウイルス感染症の感染拡大という大きな困難にも打ち勝ち、本日ご卒業される先輩方を大変誇らしく思います。私たち在校生一同、高い志を持ち昭和大学がさらに発展できるよう皆さまの意志を継承していきます」と思いを込めて読み上げた。



告辞を述べる久光学長

卒業生代表は答辞で、これまで支えてくれた多くの方への感謝とともに「至誠一貫の揺るぎない信念のもと昭和大学から発信する医療の和を広げていくことが、令和という新たな時代を担う私たちの使命だと考えています。今後も日々の学びを怠ることなく病に向き合う患者さんに寄り添って力になれるよう精進していきます」と抱負を述べた。

学位記伝達式会場の様子

式典終了後は学位記伝達式が執り行われ、一人ひとりに学位記が手渡された。また、在学中に優秀な結果を残した卒業生に贈られる上條賞、同窓会賞、上條旗ヶ岡賞、上條旗ヶ岡賞功労賞、および最優秀スチューデント・インストラクター賞の授与も行われた。

【上條賞】右から
保健医療学部看護学科 大谷 悠華
薬学部 須戸 雄大
歯学部 陸田 愛実
医学部 大日方 遼

【上條旗ヶ岡賞功労賞】
【上條旗ヶ岡賞】右から
酒泉 華英（功労賞・応援指導部）
石田 僚（陸上競技部）
伊藤 沙恵（陸上競技部）
伊藤 悠吾（アイスホッケー）
斎藤 拓哉（卓球部）

# 学長告辞

久光 正

本日卒業を迎えられた皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは六年前あるいは四年前、将来医療人になることを志して昭和大学に入学されました。言葉を換えると皆さんはこの時に自らの将来を昭和大学に投資したことになります。本日、それぞれの学修期間・成熟期間を経て、投資の成果を得たわけです。

本学の教育は建学の精神である「至誠一貫の精神」に基づいて行われています。まごころをもって患者さんに尽くし、医療を通して広く社会に貢献する医療人を育てるということです。本学の全課程を修了した皆さんは至誠一貫の精神とともに巣立っていくことになります。

皆さんはこれからさまざまな場面で患者さんと接するわけですが、患者さんの「患」の字を思い浮かべてください。心に串が刺さっている、そういう漢字に見えます。患者さんは病気やケガで体が痛んでいると同時に、心には串が刺さっている、心も痛んでいる状態であることを忘れないでください。患者さんの体の痛みをとることとあわせて心の串を抜くことを、これから行う医療の中で忘れないでいただきたいと思います。

多くの患者さんを診るうちに、患者さんが普通の人として映ってくることがあるかもしれません。その時はぜひ患者さん一人ひとりを皆さんのおじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、兄弟あるいは子供など自分の家族と思って接していただきたいと思います。そうすれば至誠一貫の心がより表れやすくなると思います。

また、医療現場で働く中で、ぜひ忘れないでほしいことは、医療の進歩は非常に速いということです。それぞれの専門分野ではさまざまな治療方法・検査方法などの開発が非常な勢いで進められています。常に研究心・向上心をもって前向きな気持ちでそれぞれが理想とする医療人を目指して進んで下さい。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、学修方法、実習方法などで多くの制約がありました。しかし、皆さんはその困難を乗り越えて本日を迎えました。医療現場で活躍する先輩たちの姿はしばしば報道され、また、多くの人々から感謝の言葉が寄せられました。皆さんも実習の際、目にしたことと思います。これからは皆さんがその仲間になるのです。素晴らしいことだと思います。

結びにジョンズホプキンス大学創設に関わった偉大な内科医ウィリアム・オスラーの言葉を紹介します。

「医学はサイエンスであり、かつアートである。この両者をお互いに関連させるよう将来にわたって努力したい」

また、「私たちが今ここにあるのは自分の幸せのためではない。他の人の人生をより幸せにするためである」

アートという言葉には深い意味があります。もし、優れた技術のことだけをあらわすのであればスキルという表現をするはずです。アートという表現をしたのは優れた技術とともに「素晴らしい医の心の要素」が欠かせないからです。では、「医の心」とはどのようなことでしょうか。これは次の三つの単語で説明されています。

その第一は、患者さんの悩み、苦しみ、痛みに「共感する心、sympathy」であります。

第二は患者さんに「なぐさめの手、いたわりの手を自然に差しのべることができる心、compassion」であります。

そして第三は、患者さんのために「つくす心、service」であります sympathy、compassion、serviceの三つの言葉であらわされるのが「医の心」であるということです。これは本学の建学の精神「至誠一貫」に相通じるものと考えられます。

皆さんが「医の心」「至誠一貫の精神」を育み続け、素晴らしい人生を歩まれることを願い、学長告辞といたします。

ご卒業おめでとうございます。

# 医学部附属看護専門学校卒業式

医学部附属看護専門学校の第55回卒業式を3月5日、上條記念館で挙行し、156名が卒業を迎えた。今年は昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大予防のため卒業生と大学関係者のみで執り行われ、小川良雄学校長から総代に卒業証書が授与された。

小川学校長は告辞で「新型コロナウイルス感染症の蔓延により看護教育の場にも大きな影響をもたらしました。皆さんはその大きな変化に対応し、自分自身でたくさんの知識を身につけてくれました。このような厳しい環境で学び卒業できた皆さんは素晴らしい看護師になるでしょう」と述べ、卒業生の門出を祝福した。

卒業生代表は答辞で、支えてくれた教育職員や家族に感謝を述べ「新型コロナウイルス感染症は多くの人々を悩ませ医療や公衆衛生に求められるものは大きくなっています。その中で医療従事者の社会的責務を果たせるよう私たちはより一層の努力を継続します」と決意を表した。

式典では、在学中に学業・人物ともに優秀であった卒業生に贈られる鈴木モヨ賞、石井満賞、および昭桜会賞の授与も行われた。

卒業証書授与

# 昭和大学大学院修了式

令和2年度昭和大学大学院修了式を3月23日、上條記念館で挙行し、医学研究科33名、歯学研究科22名、薬学研究科10名、保健医療学研究科博士前期課程8名、同博士後期課程3名、合わせて76名が研究者としての門出を迎えた。

今年は新型コロナウイルス感染予防で入口での検温や式典が一部短縮で行われたほか、家族の入場を1名までに制限するなどの対策を講じて実施した。

久光正学長は告辞で「皆さんが大学院の課程で得た新知見が、やがて学術進歩の一助となることを信じています。これからも引き続き研究を継続してさらに新知見を重ねてください」と修了生のさらなる飛躍に期待を寄せた。

式典では、各研究科長からの挨拶のほか、在学中に学業・人物ともに優秀であった修了生に贈られる上條賞の授与も行われた。

【上條賞】右から
保健医療学研究科 野口 悠
薬学研究科 篠内 良介
歯学研究科 小原 大宜
医学研究科 細沼 雅弘